

肱川流域・伊予灘の町と自然

愛媛大学工学部 正会員 朝倉康夫

1. はじめに

愛媛大学グループ（工学部環境建設工学科，鈴木幸一，伊福誠，氏家勲，朝倉康夫）は，肱川流域および伊予灘海岸地域を対象として，利用者の視点から見た土木施設・空間の景観・環境・イメージに関する評価を知るとともに，計画・設計者の意図や地元自治体の取り組み等との関連性について分析した．具体的対象地域・施設は，(i)内子町・八日市護国地区の町並み，(ii)五十崎町・小田川の河川敷整備，(iii)長浜町・肱川河口地域，(iv)双海町・ふたみシーサイドパーク「道の駅」である．（図1）



図1 肱川・伊予灘の対象地域

「内子町・八日市護国地区の町並み」については主に朝倉，「五十崎町・小田川の河川敷整備」については主に鈴木，「長浜町・肱川河口地域」については主に伊福，「双海町・ふたみシーサイドパーク道の駅」については主に氏家が分担して検討を行った．このうち，本稿では，愛媛大学グループの調査全体の概要と，内子町・八日市護国地区の調査結果について報告する．

2. 調査の概要

(1) 愛媛大学学生を被験者とする現地調査

各施設・地域ごとに利用者の視点から景観評価を行うことを目的として，平成8年11月29日（金）にバスを借り上げて，24名の日本人学生（土木海洋工学科4回生）と3名のブラジル人留学生に現地を見学させた．当日の天候は，終日雨であった．

個々の学生にレンズ付きフィルムを与え，各人の視点から見たときに「良い・優れている」と思う景観，「悪い・劣っている」と思う景観を各地域でそれぞれ3枚ずつ撮影するよう求めた．ひとりの学生は， $4 \times 3 \times 2 = 24$ 枚のシーンを撮影することになる．学生には，

○遠景，近景いずれでも構わないが，できればシーンの中に何らかの構造物（パーツも可）・施設が含まれるようにすること．

○空間全体のイメージや自然景観でも構わないこと．

○他人の意見に惑わされないこと．

を注意した．

後日，各自が良い・悪い評価を与えた景観・現象の写真撮影と理由をレポートにとりまとめさせた．具体的には，現像された写真を見ながら，1カ所6枚の写真について約800字程度で，撮影した写真それぞれについて，「良い」と評価した理由，「悪い」と評価した理由を文章で表現するものである．

(2) 地元へのヒアリング，文献・資料の収集

「内子町・八日市護国地区の町並み」，「長浜町・肱川河口地域」に関しては，歴史的土木施設（橋，商店街）の保全などについて，地元の取り組みを知るために，ヒアリング等を行うとともに，関連する文献・資料を収集した．

(3)計画・設計者へのヒアリング、文献・資料の収集

「五十崎町・小田川の河川敷整備」、「双海町・ふたみシーサイドパーク道の駅」は、最近の整備事業である。これらについては計画・設計者の意図（歴史的・自然的環境と景観についての配慮）を知るために、建設省等を中心にヒアリングを行うとともに、関連する文献・資料を収集した。

(4)調査結果の分析

それぞれの地域・施設について、利用者の景観・環境・イメージの評価構造を分析し、各施設・地域の持つ特徴・課題を明らかにする。「五十崎町・小田川の河川敷整備」、「双海町・ふたみシーサイドパーク道の駅」については、計画・設計者の意図と利用者の評価との整合性について分析を加える。「内子町・八日市護国地区の町並み」、「長浜町・肱川河口地域」については、地元の取り組みと利用者評価との関連性について分析を加える。

3. 内子町・八日市護国地区の町並み保存

3.1 地区の概要と沿革

内子町は愛媛県の県都松山市より南々西約40km、国道56号線を車で約1時間の距離に位置する。旧街道沿いに、かつて木蠟で栄えた町並が存在する。延長約700mのこの地区には往時の佇まいが保存され、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。本芳我家など3住宅16棟が国の重要文化財に指定されるなど、江戸期から明治、大正、昭和期に至る建造物の宝庫として、観光客や研究者の注目をあびている。

内子町の町並み保存運動のきっかけは、昭和47年に文化庁が実施した「第1次町並み調査」にリストアップされたことであるとされている。その後、昭和52年には広島大学を中心とする調査が行われ、その結果は「愛媛県内子町伝統的建造物群調査報告書」にまとめられた。翌53年には行政（内子町単独）が保存対策費補助金交付要綱を制定し、対策事業400万円を上限にその2分の1を

助成するようになった。この間、地域住民も「町並み保存会」を結成している。

昭和57年には、国の「重要伝統的建造物群保存地区」の選定を受け、続いて愛媛県の「文化の里」指定を受けた。このことにより、町民と行政当局の両者が積極的に町並み保存に乗り出し、修理・修景事業が進められた。修理事業とは、伝統的建造物（地区内の75棟）に対して、建物の正面を中心に外観を伝統的な形態に整えることと、屋根の葺き替えや壁の塗り替えなど建物を補修し維持することを指す。これに対し、非伝統的建造物を周囲と調和するように化粧直しすることを修景と呼ぶ。

昭和62年には、愛媛県教育委員会や広島大学を中心に、八日市護国地区だけではなく六日市地区についても調査範囲を拡大し、「伝統的建造物群保存地区保存対策調査」が実施された。その結果は同調査報告書にまとめられている。

現在では、町の歴史的環境保全は八日市護国地区にとどまらず、劇場「内子座」をはじめ、市街地の中心部にまで広がりつつある。内子町では、町並み保存を、単なる保存にとどめず、「まちづくり」の現代的再生と位置づけている。安直な観光目的を指向するものではなく、保存地区を核としながら、これをとりまく周辺地域、さらには町内全域の環境保全へと運動が拡大している。

このような背景を踏まえつつ、以下では、伝統的な町並み景観が最も良好に保存されている内子町八日市護国地区を対象に調査分析を行うものとする。

3.2 学生による町並み評価の結果

(1)撮影場所による分類

町並み保存地区の地図の上に撮影場所をプロットしたのが図2である。良いと評価された写真が多いのは、保存地区の中心に近い本芳我家や枳形の周辺である。悪いと評価された写真が多いのは、内子中学校の周辺である。

枳形に街路が屈曲している地点は、視点が止まりやすいので、撮影対象として選ばれやすい。街

路の景観設計においては、交差点や広場といった要所の設計が重要であるとされているが、撮影数の多さからもそのことがうかがえる。保存地区の外を撮影したものは比較的少ないが、保存地区と周辺との境界部分を撮ったものは少なくない。

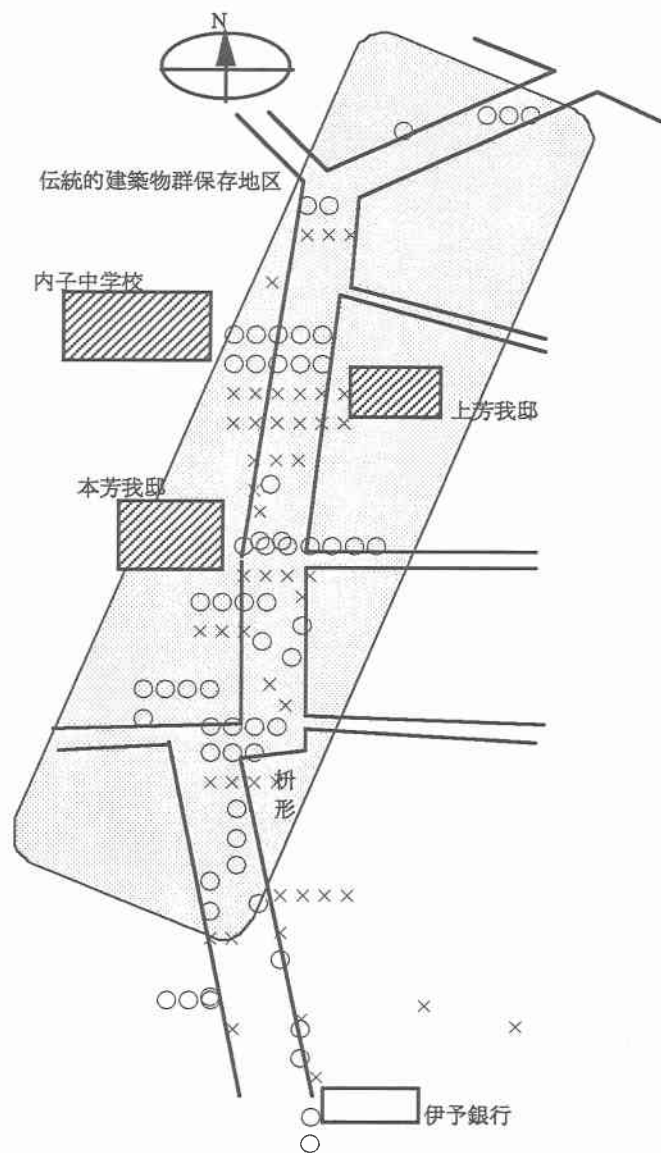


図 2 評価地点の空間的分布
○：良いとされた場所・施設
×：悪いとされた場所・施設

(2) 街路景観の構成要素による分類

表1は街路景観の構成要素と対応させて、学生被験者の評価をまとめたものである。1枚の写真に複数のコメントがなされた場合は、それぞれを取り上げたので、写真の枚数と良否の評価を表す○×の総数は必ずしも一致しない。

街路景観の主たる構成要素は、道路本体である。幅員、線形、勾配といった道路の幾何学的形状に着目した被験者の多くは、景観的に優れていると評価している。幅員が町並みと調和しているといった意見、枅形に対する評価、自然な縦断方向の勾配に対する評価が目につく。八日市護国地区の街路の持つ地形的・造形的特性が肯定的評価を生んでいると考えられる。

建物と建物との間の路地に着目した意見も見られる。地区のメインストリートだけではなく、そこから直接入り込める路地等への景観的配慮が必要であることを伺わせる。

それに比較すると、路面・舗装に対する評価は厳しい。アスファルト舗装と町並みが一致しない点や、舗装面の仕上がりの悪さが指摘されている。マンホールの色やデザインに対する注文も述べられている。対象地区は「伝統的建築物群保存地区」の指定を受けているので、沿道建物の表層のデザインには配慮されているが、地区指定により街路整備（とくに路面の舗装）が進んだとはいえないようである。そのことが沿道建物と路面との不一致の理由ではないだろうか。

道路付属物・占有物のうち、街灯や案内板・道しるべに対する評価は良い。古い街灯がそのまま保存されていたり、木製の道しるべが設置されているのは良いとされている。それに対し、2カ所のカーブミラーはいずれも評判が悪く、撤去も検討すべきとの意見も見られる。沿道建築物に合わないことに対する不快感があるのだろう。

電柱や電線はほとんど目につかないために、それらに対する否定的コメントはほとんど見られない。古いタイプの円筒型郵便ポストは、ノスタルジックなイメージに合うためか、良い評価を得ている。内子中学校の前に設置された電話ボックスは、外観を周辺に合わせてデザインされているためか、好評である。

対象地区は典型的な伝統的町並み地区の街路である。このような地区の景観の特徴は、道路内の要素によるものよりは、むしろ家並み、庭木、塀などの沿道施設で構成される点で、通常の街路と

表 1 学生による内子町・八日市護国地区の町並み評価

主要素	項目	細項目	評価・コメント
道路	本体	形状 (幅員・線形)	<○8>道路幅員が町並みと調和, クランク状の道路線形, 曲がり角からの坂, 白壁に挟まれた路地 <×2>道路幅員が狭い, 荒れた感じのする狭すぎる路地と水路
		路面	<○1>石で舗装された路地 <×11>アスファルト舗装が町並みに合わない, つぎはぎの路面, マンホールの色とデザイン
		橋梁部	<○1>木製の欄干 <×2>色が周辺に合わない. 橋としての存在感
	付属・占有物	街灯	<○3>建物に直付けされた古い街灯 <×1>統一感のない中途半端な街灯
		ミラー	<×4>カーブミラー(色と形状)
		標識・案内板	<○4>木製・石製の道しるべや目印, 理解しやすい
		電柱・電線	<○2>電線・電柱がない
		その他	<○8>古いタイプの郵便ポスト, 中学校の前の電話ボックス
沿道	町並み全体		<○10>歴史的建築物と町並みの調和, 町並み保存の状態が良好, 沿道建築物の高さが均一 <×5>左右の町並みの非対称性・不調和, 自販機と商業施設による不連続性, 保存地区と周辺との連続性の欠如, 内子町商店街(南側)からの視認性, 雑然とした町並み
	空き地	空地・駐車場	<×4>町並みの不連続性, 駐車スペースの造形
	建築物全体	商業	<○4>歴史的な家屋の中での商業活動 <×8>自動販売機
		サービス	<○9>周辺の建物との調和, レトロイメージの外観, 外観のデザイン, 喫茶店の外観 <×2>新しすぎて周辺と合わない, 無理に町並みに合わせている
		住宅	<○6>建物の歴史性, 木の温もり, 家屋の一部の無料公開, 住宅の内部, 日本的な照明, 奥行きを感じさせる玄関, 障子, 昔の生活用品. <×2>周辺と一致しない現代的外観, 人気のない民家.
	建物まわり	塀	<○3>中学校の白壁の塀 <×2>中学校の巨大な入り口, 白壁にはめ込まれた金属プレート.
		水路	<○1>水路側面の石張り <×5>路地の側溝が未整備, 水路に捨てられた空き缶, 水路上の物干し竿, 側溝自体は良いが水道管とホースが目障り
		植栽	<×1>玄関先の雑然とした木々
	建物ディテール	屋根	<○2>古い家屋の屋根の装飾. <×2>部分的な破損. プラスチック製の雨とい.
		壁・門	<○1>なまこ壁が良い. <×6>家屋の白壁の部分的なはげ落ち, 木製の外壁の崩壊, 壁の上の柵・カギ・有刺鉄線.
		庭	<○8>庭園の保存状態 <×1>手入れの行き届かない庭園
		看板	<○6>のれんによる商業サイン, 電灯式の看板, 町並みと調和した木製の看板類, 「ろう」についての説明看板 <×1>のぼりによる商業サイン
		その他	<○4>干し柿のある二階の外観, 消火用ホースの収納場所. <×2>エアコンの室外機, 内子に全く関係のない化石.
遠景	人工	建物	<×4>中学校の校舎, 周辺地区の昔の稽古小屋, 裏手のアパート
変動	交通	バイク	<×2>町並みに合わないバイクの駐車
		自動車	<×13>自動車の通行(規制必要), 自動車の駐車, 歩行者専用化とすべき
	商業活動		<○4>無人販売店, 駄菓子屋, 藁や竹製の商品. 店主・店員の対応 <×1>町並みと無関係な土産物の販売
		天候	<○1>雨と町並みの調和

注: 評価欄の○×の数は, それを指摘したコメントの数である.

は異なっているとされている。実際、被験者の撮影した写真やコメントを見ても、道路本体に対する評価箇所数よりも沿道の家屋等に対するものの方が多い。

このような沿道景観の構成要素の分類は難しい。いくつかの要素の相互作用として景観を捉えている場合が少なくないからである。実際、何人かの学生被験者は、個々の建物の造形だけではなく、連続した町並みとしての景観評価を行っている。

そこでまず、建築物の連続体としての「町並み」全体をひとつの要素として取り上げた。歴史的建築物と町並みの調和、保存の状況が良好、沿道建物の高さが均一であるといったように、町並み全体への意見は概ね好意的である。しかしながら、町並みの対称性や連続性が保たれていない部分については、厳しい評価となっている。町並み保存地区へのアプローチの視認性の悪さを指摘した意見も見られる。

空き地や駐車スペースなどの空地部分についての評価は、町並みの連続性を失わせているとして否定的である。

沿道の個々の建築物に対する評価意見の数は多い。ひとつの建物全体に対するコメントから、壁や屋根、門などのディテールに至るまでかなり多様な意見が寄せられている。商業・サービス系の建築物については、歴史的建築物の中で通常の商業活動が営まれていることを評価する意見や、建物の表層を周辺の町並みと調和させるようにした土産物屋、理髪店、喫茶店などに好意的意見が寄せられている。町並み保存地区の境界および周辺にある商業・サービス系の施設については、周辺の建物とイメージを合わせた銀行や病院の建物が良いとされている一方で、同じ病院や集会所に対して全く逆に評価した意見（周囲に無理に合わせた）もある。

商業活動の中で最も評判が悪いのは、自動販売機である。たまたま、中学校の入り口で町並みかとぎれたところに設置されており目立つ存在であることと、町並み全体の落ちついた色彩の中で自

販機の赤色が目立つということもあって、きわめて厳しい評価が寄せられている。なお、一般の住宅については、総じて好意的な意見である。

建物のディテールについての意見を見ていこう。歴史的建物の土壁のはげ落ちや、古くなったが修理されていない家屋の外壁については、全体の景観を損なわせるという意見が述べられている。一方、商家の庭園は保全状態が良好であるとする意見が数多く、普通の住宅の縁台についても良い評価を得ている。

看板類については、のれん、木製看板など、町並みに調和した看板が良い評価を得ているのに対し、のぼりはイメージを損ねるとされている。この他、門、雨とい、エアコン室外機といったかなり細かな造作にも目が向けられており、それらに対する景観的配慮も必要であることを伺わせる。

囲いや建物まわりについて、良い評価を得ているのは内子中学校の白壁の塀である。ただし、ここで町並みがとぎれて広場的スペース（いわゆる要所）が出現するために、樹木などで修景するなどの工夫を施すべきという意見も寄せられている。水路や側溝については、良好な評価とは言えない。建物と建物の隙間の排水側溝が良くないと聞いた意見も見られる。

街路の景観構成要素のうち、護国地区の街道から視野に入る自然の遠景があるとすれば山々であるが、遠景に着目したコメントはほとんど見られない。当日の天候が雨で視界が悪かったことも影響しているであろう。

人工の遠景となる塔や高層のビルは幸いにも存在しない。このことが地域の景観を良好にしている可能性も大きいので、今後の周辺地区の開発には配慮が必要であろう。

保存地区から少し離れた古い映画館やアパートに対して良くないという評価がなされている。保存地区と周辺との景観・環境のギャップをどのように埋めるかは課題の一つである。

街路景観を構成する変動要因のうち、自動車やバイクの通行と駐車に関しては、きわめて厳しい意見が寄せられている。街路幅員が狭い歴史的地

区への自動車乗り入れや駐車に対しては、何らかの規制をすべきであるとの意見も少なくない。沿道で生活・営業する人々のモビリティを確保しつつ、不必要な交通を排除することは容易ではないが、時間規制や乗り入れ免許制を検討する必要があるだろう。

商業活動については、町並みに合った営業形態を評価する意見が多い。「対応がよい」といった人的な交流が、地域の景観イメージの向上に寄与することも確認された。

現地調査当日の天候は雨で気温も低かったが、雨を理由に景観を否定的に見た意見はない。むしろ、雨と町並みの調和を指摘した肯定的意見が見られた。

4. おわりに

内子町・八日市護国地区の町並み景観について、学生被験者の評価を見てきた。以下では、被験者の評価を踏まえて、地域の景観保全・設計に関連すると思われる検討課題を抽出したい。

(1) 道路本体の景観設計：歴史的地区において、道路本体の骨格を不必要にさわることは避けなければならない。地形に合った柔らかい縦断勾配や平面線形の特徴を生かして、シークエンス景観を考えるべきであろう。アイストップとなる枡形や内子中学校の入り口、橋梁部などの要所の設計には工夫が必要であろう。多くの指摘のあった舗装路面やマンホール等の処理についても検討されなければならない。

(2) 沿道景観の連続性確保：地区全体の統一感を確保するために、沿道景観の連続性が失われないようにすべきである。駐車場や空き地、自販機を含む商業施設の外観については、整備・修景が必要である。

(3) 伝統的建築物の保存：歴史的な家屋・商家の表層については、全体的にはよく保存されているが、一部に外壁の損傷や建物自体の老朽化が目立ち、修復の必要があると思われる。

(4) 非歴史的建築物の修景：比較的最近に建てられた住宅や商業・サービス施設については、過剰

なデザインを排除すべきである。サイン・看板等については、現在までのところ、おおむね評価は良好であるが、目立ちすぎるようなものが望ましい。エアコン室外機や自宅前の駐車スペースなどの処理について、居住者の生活の利便性を過度に拘束することは適切ではないが、表層の修景で対応できるものについては、できる限りの策を講じるべきであろう。

(5) 保存地区と周辺地域との調和：歴史的町並みが保存されている地区と周辺地域とのバランスには配慮すべきである。町並み保存地区へのアプローチ、周辺部分との境界部分、周辺地区の公共的サービス施設などについても、歴史的町並みとの統一感が確保されることが望まれる。

(6) 自動車交通の処理：歴史的町並みを通過する自動車交通についての被験者の評価はきわめて厳しい。少なくとも、自動車（タクシーを含む）による観光交通を地区内に入れないような規制を講じるべきである。現在の道路交通ネットワークの形態を見ると、地区に居住する人々の生活交通を他の街路へ誘導することは難しいように思われるが、駐車施設を地区外に確保することにより、生活交通についてもできるだけ地区内の自動車通行量を削減する努力が望まれる。

<参考文献>

- 土木学会編：街路の景観設計・技報堂出版、1985.
- 内子町：愛媛県内子町伝統的建造物群調査報告書、1978.
- 内子町：伝統的建造物群保存地区保存対策調査報告書、1987.
- 内子町：内子町町勢要覧「語り継ぐために」、1996.
- 小出和郎・市岡明子：景観に関する現行法制度の概観・都市計画、No.196(特集「景観研究と景観創造」)、1995.